

NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	団体名	市原米沢の森を考える会
	代表者名	鶴岡 清次
	所在地	市原市安久谷102-8
1 事業名	市原米沢の森を地域力を結集し人の居場所にする	
2 事業費	1,092,018円(このうち県の支出 500,000円)	
3 事業期間	平成20年7月10日～平成21年2月28日	
4 事業の目的	米沢の森を地域住民の居場所にし、まちづくりの中核にする。	
5 事業概要	森づくり・里山保全整備と維持管理 里山体験学習 連携協働活動	
6 事業経過	<p>「誰が」「誰と」「誰(何)を対象に」「いつ」「どこで」「何をしたのか」ということを、わかりやすく簡潔に記載してください。</p> <p>活動を大きく分けると参加者公募のイベントと会員の活動に二分できる。</p> <p>会員の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> * 毎月4～5回、森の保全・整備・下草刈り・間伐・除伐等を実施 * 関係他団体の活動に参加し、協力 <p>11月1日 農林水産振興課のバスツアー</p> <p>1月13日 風呂の前片栗林 間伐</p> <p>2月15日 飯給駅周辺里山整備</p> <p>2月28日 里山フォーラム(東京湾岸里山フォーラムに参加)</p> <p>その他 学生や企業の里山体験教室 ちば里山センター</p> <p>参加者公募のイベント</p> <ul style="list-style-type: none"> 10月19日 森のパノラマウォーク 11月22日 里山の整備・保全体験とネイチャーゲーム 11月30日 里山保全(蔦きり)とかご編み 12月20日 デジタルカメラ講習会 1月1日 元旦 初日の出を見よう 2月21日 景観整備としいたけづくり <p>各イベント : 米沢の森において公募による参加者に里山整備を体験してもらったり、講師をお招きして自然観察・ネイチャーゲーム・ものづくり・撮影指導・椎茸づくりなどを楽しんでいただいた。スタッフの心づくしの豚汁は好評だった。</p>	

<p>7 事業成果</p>	<p>具体的な成果 具体的にどのような成果が出たのか、当初の目標に照らしてどの程度達成できたのかを記載してください</p> <p>里山の保全・整備が進み、御十八夜峰周辺の展望が広がった。その結果口コミでその素晴らしさが伝わり、地域住民の方々の活動参加者が増加した。また、イベントにもものづくり等の楽しみを取り入れたことにより人々の居場所として親しみが生まれたと思う。</p> <p>歴史や文化を調査できなかったことは残念であるが、次年度に実行したい。総合的に捉えると目標はほぼ達成できた。</p>
<p>8 直面した課題と今後の展開</p>	<p>直面した課題 この事業の過程で直面した課題・問題を記載してください。</p> <p>広報の方法に苦労したこと。結局チラシを数多く配布したが、もっと効率よく大勢の方々にお知らせしたい。 関係団体とのスケジュール調整が必要だと感じた。 補助金を受けての事業展開は不安要素もあり(受けられるかどうか)資金面で安定した状態を創出したい。森は生きているので休むことができない。継続した活動を実施するためにも何か良い方法がないか、検討する必要がある。 (今回補助金を受けられたことは心から感謝している。)</p> <p>平成21年度以降の事業展開 この事業は20年度の県の補助事業としては完了しますが、どのように事業活動を展開していくのかを記載してください。</p> <p>今までの活動の継続(森の保全と整備) 森の再生(古木の保全だけでなく森の世代交代に備える) 歴史と文化の発掘(特に「かぎろひを観る会」の実施・・・かぎろひとは厳冬の早朝、日が昇る直前太陽が燃え盛るように光を発するさま・・・万葉歌の"ひむがしの野にかげろひの立つ見えてかえりみすれば月かたぶきぬ"の情感を米沢の森で味わう会) 子供たちにも里山手入れを体験させ自らの居場所を自らの力で創らせた い。 御十八夜峰の景観を大いにPRし観光資源にしたい。 谷津田周辺の市道・赤道の整備をして、散策道の新ルートを完成させたい。</p>
<p>9 補助金事業の感想</p>	<p>NPO活動費補助金を行った感想や、応募についてのアドバイスなどがあれば記載してください。</p> <p>補助金を受けて事業を実施できたことは本当にありがたかった。</p>

米沢の森から



21年春 手入れが進んで桜が良く見えるようになった



富士は日本一の山



大島の三原山が見える



篠だけを刈り取る作業風景



原木に椎茸の菌を打つ



山道でも大活躍の運搬車

